授業科目：	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
科目区分：	全学共通教育科目	**受講者数：**	各 20～30 名
担当者：	馬本　勉（生命環境学部／全学共通教育・英語）		
アクティブ･ラーニングのタイプ：	**行動型　・　参加型　・　複合型**（※行動型・参加型 AL を組み合わせて実施）		
キーワード（具体的なＡＬ手法等）： 対面：グループワーク，プレゼンテーション，ディスカッション オンライン：Moodle 上の質疑応答，意見発表			

１. 授業の概要と目標

英語Ⅰ（1 年前期必修　1 クラス 20～30 名）	英語Ⅱ（1 年後期必修　1 クラス 20～30 名）
●語彙力，文法力を高め，さまざまな分野の英文を正確に理解できる。 ●文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り，異なる文化に対する知識を深めることができる。 ●自分の意見を平易な英語を用いて表現できる。	●語彙力・文法力を駆使し，英文の多読・速読ができる。 ●書き手の意図を的確に捉えることができる。 ●英文読解を通して，文化や社会問題等についての理解を深めることができる。 ●自分の意見を英語で的確に表現することができる。
英語Ⅲ（2 年前期必修　1 クラス 20～30 名）	**英語Ⅳ**（2 年後期必修　1 クラス 20～30 名）
●英文を正確に読み取ることができ，さらに critical reading や presentation などの応用的な読みへとつなげることができる。 ●自分の意見を英語で表現し，相手に効果的に伝えることができる。	●専門分野に関連した学術的な英文を読んで理解できる。 ●大学生として必要なアカデミック・リーディングを中心とした言語能力（表現力を含む）を身につける。

○高校での学習を終え，大学に入学した直後から 2 年間必修で学ぶ英語。上記各授業の目標に記したスキルの向上をはかりながら，能動的な英語学修者を育成する。

○グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション，双方向コメント等，さまざまな「参加型」アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業を展開する。

○ICT を活用し，授業内外での学びの深化を目指す。

２. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○英語Ⅰ～英語Ⅳ（共通）

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点（工夫）	評価方法
導入	1）前回のコメントシートを返却。 2）トランプを引かせ，毎回グループを編成（3～4 名）。Warm-up talk で英語を話す心構えを持たせる。 3）Reading Log にもとづく Book talk（英語の本を紹介するプレゼンテーション）をグループ内で行う。	○各自に 6-word コメントを記入して手渡し。 ○日本語や，連想英単語から入り，英文を導入しやすくする。 ○相手を見て英語で話すよう指導する。	○机間巡視を行い，グループ活動を観察。

展開	4) 理系の学生が関心を持つような話題や，時事的な問題を扱った記事を読解用に選定（例えば遺伝子操作，捕鯨問題など）。 5) 冒頭のパッセージを用い，DTR 学習を行う。DTR とは，Dictation（聴取・書取），Translation（和訳），Re-translation（英語への復文）を順に行う方法。グループで確認しながら進める。 6) Dictation の確認段階でトピック全体の英文をプリントで配付。 7) DTR を終えたら，プリント全体を短時間で黙読したのち，グループ内で読み取った内容を共有する。 8) グループ内で語句の確認。 9) 相互に読解問題を出題し合う。 10) 内容についてグループで意見交換。	○賛否両論の分かれそうな記事を選定する。 ○DTR のうち，Dictation はグループ内の確認後にプリントを配付する。Translation は学生の発表と教員の解説を繰り返す。Re-translation はスライドを表示しながら「和→英」の変換がスムーズにいくよう繰り返し練習を行う。 ○黙読内容の確認では短時間の発表を繰り返し，グループ内で共有する情報を徐々に追加する。 ○語句と読解問題は，Moodle 上のシステムを活用し，全体で共有する。	○DTR 学習では，グループ活動時の机間巡視，和訳の発表，スライドに沿った英文の再現など，常に学生の状況を観察する。完成後の DTR シートは提出させる。 ○Moodle 上の書込みは，学生が相互チェックできるよう，クラス内で公開する。
まとめ	11) 記事に対する自分の意見を 1 パラグラフの英文にまとめ，発表（Your Opinion）。 12) 授業の振り返りを 6 words で書く英文にまとめる。 13) 次回への課題：図書館で英語の本を借り，次回までに読んで Reading Log に 1 パラグラフのコメントを記入。	○パラグラフの構造をあらかじめ提示し，英文のパターンに沿ってまとめる（Moodle に投稿。Your Opinion，Reading Log 共通）。 ○6-word comment はその成り立ちの説明と例示を行う。毎回のコメント返しを 6 words で書く。	○学生が相互に Moodle 上に書かれたパラグラフを読み合う。 ○コメントシートの英文に対し，最小限に誤りの指摘を行う。

３. 成果・効果

授業外学修時間への影響

	H29 前期	H29 後期	H30 前期	H30 後期
英語Ⅰ・Ⅱ	55	54	95	96
英語Ⅲ・Ⅳ	62	60	80	90

1 週間当たりの授業外学修時間を「30 分以上」「1 時間以上」と回答した履修者の割合（%）

○平成 29 年度の夏期休暇中に CALL 教室を更新して以降，アクティブ・ラーニングの手法を授業内で実施することと，その前提として ICT を活用した事前課題を課すことを心がけ，徐々に授業改善をはかってきた。上記の表は，取組の結果として授業外学修時間が伸びてきている様子を示している。

○グループでのディスカッションの機会を多く持つようにしているが，積極的な意見の発信をする学生が増加傾向にある。

〇Reading Log や Your Opinion の活動を通じ，パラグラフの英文パターンの定着をはかっているが，短時間で論理的な英文を書ける学生が増加傾向にある。

４. 課題

〇英語科目におけるアクティブ・ラーニングと e ラーニングの融合により，授業の活性化と授業外学修の充実にはつながっている。学生の積極性は増したと思われるが，例えば TOEIC ではかれるような客観的な英語力との関係についても明らかにし，授業の工夫が技能向上に結び付くことを一層明らかにしていきたい。

５. 資料

「アクティブラーニングと e ラーニングを融合させた英語授業の改善」